

令和4年度第2回多賀城市子ども・子育て会議録

□日 時 令和5年1月24日（火） 午後3時から午後4時10分まで

□場 所 多賀城市市民会館 2階 展示室

□出席者（13名）

増子正委員（会長）、磯部裕子委員（副会長）、引地ますみ委員、伊藤真美委員、村上秀典委員、中鉢義徳委員、黒川恵子委員、丸田浩之委員、中里和裕委員、佐々木絵美委員、富田善信委員、伊藤光子委員、相沢弘之委員

□欠席者（1名）

小野敬弘委員

□事務局

郷家保健福祉部長、柴田保健福祉部次長兼社会福祉課長、小林子ども家庭課長、阿部介護・障害福祉課長、佐藤学校教育監、水越生涯学習課長
菊地子ども政策課長、後藤子ども政策課長補佐兼子ども政策係長、水越幼保支援係長、菊地子ども政策課主査 佐々木子ども政策課主査

□次 第

1 開会

2 会長挨拶（増子会長）

3 委員紹介

4 議事

(1) 審議事項（諮問事項）

特定教育・保育施設等の利用定員について

(2) 報告事項

令和5年度の市の取組みについて

5 その他

6 閉会

会議成立の確認

事務局：皆さま、本日は、大変お忙しい中、お集まりを頂きまして、ありがとうございます。会議開催に先立ち、資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、事前に送付いたしました次第、資料1から資料2、本日配付しております資料3となります。資料に不足がある場合、事務局までお知らせください。

本日の出席委員数をご報告申し上げます。

多賀城市子ども・子育て会議の委員は14名ですが、宮城県多賀城高等学校校長の小野委員から公務の都合により欠席する旨の連絡がありましたので、本日の出席は13名となっております。

多賀城市子ども・子育て会議条例第4条第2項の規定に基づき、過半数以上の委員が出席しておりますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。

1 開会

事務局：それでは、ただ今より、令和4年度第2回多賀城市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を努めます、子ども政策課の佐々木と申します。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日の会議の内容につきましては、議事概要として市のホームページ上で公開いたします。

その際、会長以外の発言者については、委員という形で記載いたします。なお、会議の委員名簿につきましては公開とさせていただきますので、ご了承ください。

2 挨拶

事務局：お手元の次第に沿って進行してまいりますので、よろしくお願いいたします。

まず、次第の2番、会長挨拶でございます。増子会長よりご挨拶を申し上げます。増子会長、よろしくお願いいたします。

会長：お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

大変強力な寒波がやってくるということで、この寒波の中、ふとウクライナの子どもたちのことを少し思いまして、もっともっと寒い所で暮らしている子どもたちのことを思うと、少しいたたまれないような思いになりながら、天気予報を見ておりました。

一方で、明るいニュースと言うのでしょうか、国が防衛力の増強と、もう一つ、異次元の少子化対策を掲げました。まだ具体的な所までは示されておりませんが、児童手当の強化、学童保育や病児保育、産後ケアの支援拡充、それから働き方改革の3つの柱を掲げており、3月までを目途にたたき台を作るということでございますので、これが多賀城市の子ども・子育て会議にとっても追い風となってくれることを期待していますが、国は国、地域には地域の実情がありますので、本日も子ども・子育て会議を通じ、皆様からご意見いただきながら、子どもたちが大人になってから、多賀城で育って良かった、多賀城で子育てして良かった、と言っていただけるような多賀城市の子育て支援になりますよう皆様ご協力よろしくお願いいたします。

事務局：増子会長、ありがとうございました。

3 委員紹介

事務局：続きまして次第の3番、委員紹介です。本日ご参集いただきました委員の中で、新たに委員となられた方が2名いらっしゃいますので、司会の私からご紹介させていただきます。

(委員・事務局紹介)

4 議事

(1) 審議事項（諮問事項）

(ア) 特定教育・保育施設等の利用定員について

事務局：続きまして、次第の4番、議事でございますが、ここからの進行は、多賀城市子ども・子育て会議条例第4条第1項の規定に基づき、増子会長が議長となります。増子会長よ

ろしくお願いいたします。

会長：それでは、暫時、議長の職を務めさせていただきます増子でございます。速やかな議事の進行となりますよう、委員皆様のご協力をお願い致します。では、早速議事に移りたいと思います。

本日、この子ども・子育て会議の議事案件は、次第に記載されておりますとおり「審議事項」1件、「報告事項」1件でございます。

はじめに、諮問事項となりますが、(1)審議事項の「特定教育・保育施設等の利用定員について」事務局から説明願います。

資料2に基づき、事務局から説明

会長：ありがとうございました。ただいまの「特定教育・保育施設等の利用定員について」委員の皆さまから何か御意見や御質問等はございませんか。

委員：まだ待機児童がいるということだが、令和5年度、定員に満たない保育所は多い。仙台市のある施設では、市からの要請で150名まで利用定員を増やしたが、0歳児の定員18名のところ、令和4年度の入所は6名のみだった。職員をすぐ減らすわけにもいかず、経営が非常に厳しい。施設全体の定員を令和4年度は100名まで減少させたが、令和5年度は更に、10名程度減少させる予定である。多賀城市においても人口減少のほか、小規模保育所、認可保育所(園)、認定こども園の整備も行い、徐々に待機児童が解消されることになると思うが、この先将来を見据えた人口減少等に対し、私立の保育所や認定こども園は経営が更に厳しくなることが見込まれる。市として、どのような対策を行うのか伺いたい。

事務局：人口減少、少子化時代に伴う多賀城市全体の保育の受け入れについては、資料3ページに記載のとおり、出生数は減少傾向にある。また、令和4年の出生数は、若干回復するも500名を超すことはないと思われる。これまで事業計画に基づき、保育施設等の整備を行ってきたところだが、計画上では、もう1か所保育所を整備することとなっている。しかしながら、資料にあるとおり出生数の減少のほか、今回の認定こども園の整備の状況等そういったものを鑑みると、新たに保育施設を整備するという事は、現状では考えていない。今後も適切な利用定員の設定に努めていきたい。

委員：以前から話しているが、公立保育所には、公立保育所に入る子どもを民間へ振り分けるなど、民間の教育・保育施設の安全弁になっていただきたいと考えている。実際、私どもの保育所では、0歳児の定員が12名だが、令和5年度においては、現時点で3名であり、9名足りていない。今は産休や育休の期間が延び、0歳児で保育所に入所させる保護者は減少しているものの、9名足りていないとなると、運営が大変厳しい。保護者の中には、公立保育所を利用したい方もいると思うが、公立保育所が安全弁となり、民間の教育・保育施設を支援いただきたい。

委員：保育所の定員が減少する可能性が出てきている。子育て支援施設の定員が減少するという事で、先日新聞にも載っていたが、未就園児(紙面上は無園児という名称)、つまり保育所や認定こども園等に入所していない児童を育てる保護者の負担はやはり大きいと考えている。また、隣近所との付き合いも少なく、孤立していることが多い。子育ては、今

「孤育て」とも呼ばれている。多賀城市が率先して、保育所等の子育て支援施設を上手に利用できる体制を取っていただければ、保護者の負担が減るだけではなく、私どもの施設も活きるのではないかと思う。利用にあたっては実費も発生するため、市でクーポンを出すなど、その対策も取っていただければ、更に施設を上手に活用できるのではないかと思う。その辺りについて検討いただきたい。

事務局：教育・保育施設等の活用については、どのような方法で、それが子育て世帯にどのような風に影響があるのか、それらを検証して、事業の検討に取り組んでいきたい。

委員：8人の子どもが卒園し、一次入所調整後、1名の子どものみ入所が決まっている。毎年、何名の子どもが来るのかと戦々恐々としている。今いる保育士に辞めていただくわけにもいかないの、何とかよろしくお願ひしたい。

事務局：先日、一次入所調整を行ったところだが、現在、二次調整を行っている。二次調整中の児童もいるので、その中でも調整していきたい。

会長：そのほか、委員の皆様からごさいませんか。それでは「特定教育・保育施設等の利用定員について」は、原案どおり承認でよろしいでしょうか。

(委員一同うなずく)

会長：ありがとうございます。では、そのように決定いたします。本会議の答申案の内容については、会長一任とさせていただきます。よろしいでしょうか。

(委員一同うなずく)

会長：ありがとうございます。ではそのように決定いたします。以上で、本日の審議事項を終了いたします。

(2) 報告事項

令和5年度の市の取組みについて

会長：それでは、次に、(2)報告事項の「令和5年度の市の取組みについて」事務局から説明願ひいます。

資料3に基づき、事務局が説明

会長：ありがとうございます。実に多くの事業を行っており、本日紹介のあった取組は一例と思いますが、この内容を市民に広く知らせることが大事だと改めて感じました。ただいまの「令和5年度の市の取組みについて」何か御質問等はごさいませんか。

(質疑等なし)

会長：特に無いようですので、何か皆様からその都度お気づきのことがありましたら、事務局の方まで連絡いただきますようよろしくお願ひいたします。それでは、報告事項は以上で終了させていただきますが、少し時間がありますので、委員の皆様から本日の議事に関する御意見や御感想等でも良いので、何か一言お願ひしたいと思ひます。

委員：実際に今、子育てしているが、保育所等の話のほか、市の取組みも聞けて、これからどのように子どもを育てていけるか、またどこに相談したら良いのか等ということが分かった

ので、本当にありがたく聴かせていただいた。

委員：子育て中の保護者の方に接する機会があるが、未就学児の保護者は、人に預けるということに抵抗がある方や、申し訳なさを感じる方が多い印象を受けている。産後ケアの取組や子育て応援の取組みが一貫して行えるようになるとのことだったので、その取組みを子育て世帯に広く知らされると良いと感じた。

委員：子育てに関する様々な話を聞きました、ありがとうございます。1点思う所があり、市内には公園が結構あるが、ある公園で、遊具が壊れた後、全て撤去されて、空き地になっている所がある。空き地になると子どもたちはサッカーや野球をやりたいと思う。先日、サッカーをやっていた児童が、施設の窓を割ったことがあった。保護者が来て、深く頭を下げられて行ったが、それでも子どもたちはサッカーや野球等で遊びたいと思う。市内にはサッカー教室、野球教室等もあるが、そこまでやらなくても良いという児童が遊べない状況となっている。せつかく公園の遊具を撤去し、広々としたスペースがあるのであれば、子どもたちが思いっきり遊べるような場所を作ってあげて欲しいと思う。

委員：保育や教育を取り巻く環境について、虐待などネガティブな話が毎日のように報道されている。保育の質の問題ということだが、大きな問題は、昭和23年から70数年変わらない保育士の配置基準である。1人の保育士が0歳児を3人見るといっても限度がある。万が一事故や災害が起きた際、保育士が3人引き連れて、避難することは難しい。その一方で、全国的に見ると加配を行っている市町村もある。ぜひ多賀城市においても、これを課題として検討いただくようお願いしたい。ここ数年コロナ禍で、保育士は大変疲弊している。業務量が多いことはもちろん、自らが感染するのではないかという恐怖心を持っているが、大きな使命感を持って保育している。働き方改革、処遇改善の手当だけではなく、例えば、0歳児3人のところに1人加配するなど、余裕をもった保育ができるよう支援をお願いしたい。

委員：利用定員の話について、保育所が増え、この先園児の奪い合いになるのではないかとこのことを以前の子ども・子育て会議で話させていただいた。その際、市から公立保育所が調整弁になると話があった。その考えは、今はどうなっているのか。

事務局：現在もだが、これまでも公立保育所で調整している。民間の保育施設等の定員充足率9割以上に対し、公立保育所は常に6割程度となっている。民間の保育施設等を優先し、調整している状況である。

委員：資料3の8ページにコミュニティスクールのお話を掲載している。教員ではなく、地域の方に児童を褒めていただく、或いは、おはようございますと挨拶いただくなど、地域の方から声をかけられると、児童も声をかけるようになる。また、その地域で育った子どもは、今度は自分達から、地域の子どもたちへ声をかけるようになる。コロナ禍で控えていたが、地域の方に教えにきていただくと、子どもたちも楽しそうにしており、また、地域の方からも子どもに教えることができ楽しかった、という声をいただく。非常に温かいものを感じる。だんだん希薄になっている温かさのようなものがここで生まれてくるので、コロナも収束し、またコミュニティスクールがスタートということで、コミュニティスクールをうまく活用しながら、地域と共に、子どもたちを育てていければ良いなと感じている。

委員：令和5年度からコミュニティスクールの取組みが始まる。全国にある多くのコミュニティ

スクールは、地域や家庭が学校を支援するものとなっており、一方通行になりがちだが、多賀城市の場合は、学校からも地域を支援することとしている。そして、宮城県教育委員会では志教育といい、人や社会と関わる中で自分の果たすべき役割を果たし、そのことによって、よりよい生き方を求めさせようという教育を展開している。子どもたちに自分の役割を果たす機会と場を提供いただき、そして子どもたちも地域に貢献できるという思いを体験し、多賀城市を誇りに思う子どもが育つようこれからも努めていきたい。保育所や幼稚園とも、ぜひ交流の場を持たせていただき、先ほど避難の話も出ていたが、何かあった時に近所の中学生が避難を手伝える、そんな子どもたちを育てることができればと思う。

委員：初めて子ども・子育て会議に参加したが、このような会議が多賀城市で開かれていることが知らなかった。子どもたちのために、会議を開いてくださっていると感じ、感謝したい。自分も子どもたちに関わっているので、全ては子どもたちのために、という気持ちでいること、また、個人的には地域のお母さんになれば良いと思い、日々活動している。それは私一人でできることではなく、地域や市の皆様のご協力があってこそなので、今後ともよろしくお願ひしたい。

委員：私も初めてこの会議に参加したが、令和元年度まで小学校校長をしており、その後、市の教育関係の業務に携わっている。小学校から見た視点、行政から見た視点、保育所から見た視点、施設の経営等の細かい点については、理解していないところはあるが、本日は話を伺って、みんなで考えなくてはならないものと改めて感じた。これまでの経験から話できる部分は話していきたい。コミュニティスクールの話があったが、在職中は、自分も地域の方々にたくさん支えられた。地域に出て挨拶や関わりを作ってきた人間ですが、残念ながらコロナ禍となり、どうしても地域と関わりが持てなくなったので、それを盛り返すきっかけとなるのがこのコミュニティスクールや地域学校協働本部の推進であると考えている。引き続きよろしくお願ひしたい。

委員：この会議に参加し10年になるが、気になっている点が3つある。多賀城市には特色のある企業が多くある。今週28日（土）には、サイエンスデイin多賀城という企業などによる科学の出前講座のイベントを文化センターで開催する。今年で7回目を迎える。さて今年度、中学生の職場体験を再開した学校があり、弊社にも依頼をいただいた。社内では職場体験を年間計画として毎年秋頃に計画しているが、今回学校からの依頼が開催日の2週間前で、それも学校の方に出向き就労体験を提供するという新しいスタイルであったため、残念ながら対応をご辞退した、というケースがあった。企業としてもCSR活動の一環として職場体験を協力したいという思いはあるが社内の調整には期間を要する。学校側、企業側のニーズのマッチングをもっと計画的に、システムチックに行えないものか。まずは、当協議会の会員64社における職場体験の受入れ状況を取りまとめ教育委員会へ提出したいと考えている。将来的に多賀城市全体としてもシステムチックに実施できれば、もっと子どもたちのためになるのではないかと考える。検討をお願ひしたい。2点目は、部署が異なるかと思うが、昨年3月に多賀城でイクボス宣言が実施され、多工連の会長も決意を述べたが、それ以来何も無い状況である。宣言されたものの、市役所の中では講演会等開催されているかもしれないが、企業の方には何もないのが残念である。宣言したのであれば、年に1回程度は、啓発に関するお便り等をいただきたい。3点目は、これ

までも何度もお願いしていることだが、自分は事業主代表として会議に参加しているが、この会議でのお話を経営者の方々に知らせるという術を持っていない。例えば健康長寿課であれば、健康増進に係るレターを企業や商工会に3か月に1回配付し啓発されている。こども子育ても同じように次のアクションにつながるような施策を講じていただくと、一歩前進するのではないかと考える。検討をお願いしたい。

会長：2点目の話については、事務局から関係部署につないでいただくようお願いしたい。

委員：コミュニティスクールなどの様々な事業について、地域隅々にまで行き届くようPRを徹底いただくと、地域全体が盛り上がると思うので、周知方法は様々あると思うが、上手く活用しながらやっていただきたい。

会長：皆様から大変貴重な意見いただきました。もう少し時間をかけて議論するとより良い多賀城市になるのではないかと感じた。ありがとうございました。以上で、本会議における議事はすべて終了しました。皆様の御協力、ありがとうございました。進行を事務局に戻します。

事務局：増子会長、議事の進行ありがとうございました。また、委員の皆様もありがとうございました。

5 その他

事務局：次に、次第の5番、その他としまして、委員の皆さまから何かございますか。

(質疑等なし)

6 閉会

事務局：それでは、閉会にあたりまして、副会長より、一言、ご挨拶を頂戴したいと存じます。磯部副会長、よろしくお願いいたします。

副会長：本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。また、それぞれの立場から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。先ほど委員からも話がありましたが、保育に係る様々な問題が最近報道されており、心を痛めております。それぞれの施設、当事者に要因があると思われそうですが、その一方で、子どもを育てるということが、家庭でも保育園でも難しい問題を抱えている現実があるように思います。それは先ほど委員からもご指摘がありましたとおり、一つは配置基準の問題なのかもしれないです。多賀城市がコミュニティスクールをスタートさせるということで、大変嬉しく、ぜひ応援したいと思っておりますけれども、保育の現場も一つ一つ孤立すると、やはり様々な問題が起きてくるのだらうと思います。小学校や中学校だけでなく、保育の現場も地域の中にあり、地域に支えられながら、育てられていくということが大事だと思います。そして皆が多賀城で育って良かった、多賀城で育てて良かった、多賀城って歴史や文化もあって良い所だよねと思ってもらえるよう、より多くの良い所を見つけ、全国に発信していけるような地域づくりを子どもたちのために、また子どもたちと一緒に取り組んでいければ良いと思います。一つ一つの課題はこの会議の中で、今後も委員の皆様と検討しながら、やってまいりたいと思っております。今後ともご協力いただければと思います。本日はありがとうございました。

事務局：磯部副会長ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回多賀城市子ども・子育て会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。